

2023
January
Vol. 63

建設・環境技術レポート&トピックス

I-NET

Contents

新たな取り組み

- 06 治水とまちづくり連携計画の策定
- 04 魅力ある持続可能な地域づくりへの取り組み
- 02 ガスクロマトグラフ質量分析計の高感度化

Working Report

- 10 水田水域における生態系配慮施設の生物多様性保全効果
- 08 農業用ダムの洪水調節機能強化の課題と当社の取り組み



人と地球の未来のために――



いであ株式会社

Column

GHG排出削減のための農林水産分野の施策の動向 ～みどりの食料システム戦略とGHG排出削減対策の見える化～

農林水産業は、本来は自然循環機能を生かし、私たちの生存に必要な食料等を生産する産業でした。しかし、人口が増加し科学技術が発達するにつれて、森林伐採による農地拡大、大型機械や化学肥料・化学農薬を用いた食料増産、家畜の大規模多頭飼育を行うなど、環境に負荷を与える一面も持つようになりました。このため、地球規模でみれば世界の温室効果ガス(Greenhouse Gas: 以下、GHG)総排出量520億トン(CO₂換算、2007-2016年平均)のうち、農業・林業・その他土地利用に関するものが全体の約4分の1を占めています。日本国内では、総排出量11.5億トン(CO₂換算、2020年度: 以下同じ)のうち農林水産分野は5,084万トンで、全体の約4%を占めています。農林水産分野の主なGHGと排出源は、水田や家畜の消化管内発酵等によるメタン、農用地の土壌や家畜排せつ物管理等によるN₂O、燃料燃焼によるCO₂等です。

一方、森林、農地・牧草地による国内のGHG吸収量は4,450万トンとなっています。こうしたなか、農林水産省では2021年5月に「みどりの食料システム戦略」を定めて、2050年までの農林水産業におけるGHG削減目標とその工程表を明らかにしました。戦略では、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現することとし、2050年の農林水産業のCO₂ゼロエミッション化、化学農薬使用量(リスク換算)の50%低減、化学肥料の使用量の30%低減、有機農業の取り組み面積を100万haに拡大、さらに吸収源強化のためのエリートツリー等の成長の優れた苗木の導入拡大、ニホンウナギ、クロマグロ等の養殖における人工種苗比率100%達成等を目指しています。工程表として2030年、2040年を区切りで段階的な目標を定め、併せて技術開

発も進めることとしています。GHG削減に向けた技術革新としては、2030年までに開発されつつある技術の社会実装、2040年までに革新的技術・生産体系を順次開発、そして2050年には革新的技術・生産体系の速やかな社会実装を行う計画となっています。こうした戦略の実現に向けて、2022年7月には「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律(みどりの食料システム法)」が施行され、環境と調和のとれた食料システムの確立に関する基本理念、農林漁業に由来する環境への負荷の低減を図るために行う事業活動等に関する計画の認定制度等が設けられました。この法律にもとづく国の基本方針が2022年9月に告示され、都道府県・市町村による基本計画、農林漁業者等による実施計画に関する手続き等が行われています。

また、食料・農林水産業活動に伴うGHGの排出量・削減量等の「見える化」に対する取り組みも行われています。農業者等の脱炭素化の取り組み効果を算定し、取引先や消費者にアピールすることが期待される「農産物の温室効果ガス簡易算定シートを利用した脱炭素の見える化ガイド」(2022年9月)の公表や、TCFD提言にもとづく食品事業者の気候関連リスク等に関する情報開示を促す「食料・農林水産業の気候関連リスク・機会に関する情報開示(入門編)(実践編)」(2022年9月)等の作成・公表です。

当社では、環境コンサルタントとして農林水産分野の気候変動関連業務を実施するとともに、TCFDに関する企業の気候変動関連リスク・機会の評価支援サービスも提供しています。豊富な実績と技術を活用し、農林水産分野のGHG排出削減をめぐる取り組みにおいても貢献してまいります。



CORPORATE DATA

社会基盤の形成と環境保全の総合コンサルタント

商号	いであ株式会社
創立	1953(昭和28)年5月
本社所在地	東京都世田谷区駒沢3-15-1
資本金	31億7,323万円
役員	代表取締役会長 田畑 日出男 代表取締役社長 田畑 彰久
従業員数	1,032名(2022年4月1日現在、嘱託・顧問を含む)

事業内容

- 建設コンサルタント事業
河川・海岸・港湾・道路・橋梁の整備・保全、交通・都市・地域計画、防災・減災対策
- 環境コンサルタント事業
環境調査、環境評価・環境計画、自然環境の保全・再生・創造、環境化学分析、環境リスク評価、廃棄物・有害化学物質対策、食品分析、衛生検査、生命科学
- 情報システム事業
情報基盤の構築支援、防災・減災システム開発、気象・健康・生活情報の提供・配信
- 海外事業
インフラマネジメント、環境保全・創出

お部屋の健康診断

PCR検査法によるDNA診断

綿棒でふき取って送るだけ(送料無料)

お申し込みは、Webショップから

<https://lifecare.ideacon.co.jp/>



診断報告書例



ホコリや汚れの中に存在するダニ・花粉・カビ・バクテリア・トコジラミ・ヒゼンダニのDNA量を測定して、お部屋の衛生状態を評価します。

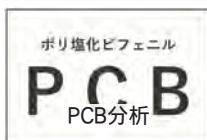
お客様の状況に合わせた診断プランを用意しております。

Life Care Service
いであライフケアサービス

そのほかにも身近な問題や課題を解決するさまざまなサービスを提供いたします。



食品の栄養成分分析



ポリ塩化ビフェニル
PCB分析



水道水に関わる
水質分析



土壌環境の
コンサルティング

本社 社会基盤本部
国土環境研究所
環境創造研究所
食品・生命科学研究所
亜熱帯環境研究所
大阪支社
大沖支社
札幌支店
東北支店
福島支店
北陸支店
名古屋支店
中国支店
四国支店
九州支店
山陰事務所
システム開発センター
IDEA R&D Center
富士研修所
富営業所
海外事務所
連結子会社

〒154-8585
〒158-0094
〒224-0025
〒421-0212
〒559-8519
〒905-1631
〒559-8519
〒900-0003
〒060-0062
〒980-0012
〒960-8011
〒950-0087
〒455-0032
〒730-0841
〒780-0053
〒812-0055
〒690-0012
〒370-0841

Klong Luang, Pathumthani 12120, Thailand

〒401-0501 山梨県南都留郡山中湖村山中茶屋の段 248-1 山中湖畔西区 3-1

青森、盛岡、秋田、山形、いわき、茨城、群馬、北関東、千葉、神奈川、相模原、富山、金沢、福井、山梨、伊那、長野、岐阜、恵那、静岡、富士、菊川、豊川、磐江、三重、名張、滋賀、神戸、奈良、和歌山、鳥取、岡山、下関、山口、徳島、高松、北九州、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄北部

ボゴール(インドネシア)、ロンドン(英国)
新日本環境調査株式会社、沖縄環境調査株式会社、東和環境科学株式会社、株式会社Ides、株式会社クリアテック、以天安(北京)科技有限公司

電話:03-4544-7600
電話:03-6805-7997
電話:045-593-7600
電話:054-622-9551
電話:06-7659-2803
電話:0980-52-8588
電話:06-4703-2800
電話:098-868-8884
電話:011-272-2882
電話:022-263-6744
電話:024-531-2911
電話:025-241-0283
電話:052-654-2551
電話:082-207-0141
電話:088-820-7701
電話:092-641-7878
電話:0852-21-4032
電話:027-327-5431

i-NET

JANUARY 2023 Vol.63 (2023年1月発行)

編集・発行:いであ株式会社 経営企画本部企画広報部
〒154-8585 東京都世田谷区駒沢3-15-1
TEL. 03-4544-7603, FAX. 03-4544-7711

人と地球の未来のために —
いであ株式会社

お問い合わせ先

E-mail: idea-quay@ideacon.jp



この冊子の印刷にはバイオマス発電設備で発電されたグリーン電力を使用しています。
冊子6,000部の印刷に使用する電力は125.47kWhと計算しています。